

## 令和5年度学校評価アンケート集計結果と学校評価について

学校関係者評価を行うにあたり、内部評価（教員・生徒）に対するアンケート調査を行い、分析することで次年度の学校運営の参考にする。

## 調査方法および分析方法）

## 1. 概要

調査は全校生徒（163人）を対象に、独自のアンケートを作成し、行った。アンケート結果は、個別に集計し統計処理を行った（平成25年度より継続して実施）。

## 2. アンケート結果

- ・施設及び学年の得点率が他の項目よりやや低く70%台、他の項目の得点率は80%強であった。学年間の比較では、総ての項目で有意差が見られず、昨年度と同様の結果であった。
- ・満足度の年度間比較では、2年連続で減少傾向であったが、今年度は回復し、3年振りに80%を上回った。コース間では、例年と同様に普通コースよりスポーツコースの満足度が高い傾向が見られたが、普通コースの数値は昨年度から5%向上した。
- ・現3年生、2年生とも昨年度と比較して満足度が向上した。ただし、2年生に関しては、満足度以外の小項目の得点率は昨年度をやや下回る結果となった。
- ・CS分析の結果より人間関係は例年通り重要かつ満足度が高い傾向があった。また、近年重要度が上がっている授業についても、満足度が高かった。進路の満足度が3年生は高く、1, 2年生が低い傾向が見られる。ただし、全体的に見ると重要度の高い項目は比較的満足度が高い傾向は続いている。
- ・満足度と各小項目の相関係数に関しては、高い項目と低い項目に分かれ、昨年度とは異なる結果となった。調査開始時からの傾向を見ると、進路と人間関係は継続して相関係数が高い状態が続いているが、特活は相関係数が低くなり、授業の相関係数が上昇している。
- ・教職員の自己評価は昨年度まではR2年度から上昇傾向にあったが、今年度は授業以外の項目で得点率が低下した。
- ・自由記述欄、北照高校の良いところを記載内容毎に分類した結果、なし、学校生活、部活、教員、施設、授業の順で数が多かった。同じく悪いところは、なし、施設、通学の順で数が多かった。

## 自己評価)

※評価についてはAを最高として、A～Eの5段階評価で行った。

項目	評価	総評
学校運営	B	昨年度の反省を踏まえ、生徒の満足度の評価を回復させることができた事、令和3年度に起きたいじめ事案について、報告書を道に提出するなど、いじめのない学校作りに力を入れ始めたこと等から本件に関して、少しずつ進展させていることから評価を1段階回復させた。一

		方で、被害生徒及び保護者との信頼関係が依然として構築段階であること、教職員の評価が大幅に低下したことを真摯に受け止め、令和6年度の学校運営を行っていく必要がある。
生活指導	B	生徒のアンケートや教職員の自己評価から、生徒・保護者とは昨年度に続き一定の信頼関係を築くことができている。生徒活動部を中心として、問題自体の早期発見と対応ができるような組織作りや、生徒指導の在り方の見直しなど具体的な取り組みを行うことができた。一方で、生徒への啓発活動や教職員研修を十分に行えなかったため、評価の回復は一段階に留めた。
進路指導	A	令和5年度の卒業生に関しては、自己の希望する進路実現を果たすことができた。高い目標を持ち、難関とされる大学等へ進学できた生徒が複数人いたことは、進路指導部を中心として、全教員が協働できる仕組み作りができたためと考えられる。また、進路活動に前向きに取り組む事ができない生徒に対しても担当が粘り強く指導をした。ただし、前年からの課題である進路決定後の指導については、具体的な成果を出すことができなかった。
教科指導	A	スポーツコースのクラス編成を変更することや普通コースの少人数授業の結果、生徒の授業に対する満足度は高い状態を維持できている。個々の能力に合わせた授業を提供できていること、その結果として進路活動を円滑に進めることができたことから、最高の評価とした。昨年度に課題として挙げたICTの活用については、教科によって差がある状況であるため、活用方法等の研修を行うなどの対策を講じていきたい。
特別活動 課外活動 指導	B	新型コロナウイルス影響以前の活動を再開させ、生徒がより楽しみながら取り組むことができる行事を行う事ができた。各部の活動についても、充実した活動を行う事ができた。一方で、いじめのない学校作りに関わる各部の取り組みについて、具体的に実施することができなかったことから、評価を据え置きした。
総合評価	B	前年度は、さまざまな課題を改善させる必要性から、評価をCとして令和5年度を始動させた。上記の通り、これらの課題について具体的な取り組みを始められた部分と、改善の過程にある部分、手を付けることができなかった部分に分かれてしまった。また、生徒の評価が回復した一方で教員の評価が下がってしなうなど、次年度に向けて不安も残る年度となった。これらのことから、次年度はより質の高い教育活動を行っていく必要があると考え、総合評価を1段階挙げたBとした。